

# あゆみ

氷川学園広報部

〒869-4602 八代郡氷川町宮原1116

TEL (0965) 62-4081

FAX (0965) 62-4080

Mail [hikawagakuen@seiryu-hikawa.com](mailto:hikawagakuen@seiryu-hikawa.com)

HP <https://hikawagakuen.com/>

氷川学園

# 秋の味





追悼  
社会福祉法人清流会 氷川学園  
管理者 村山 智



社会福祉法人 清流会 氷川学園  
施設長 西坂千賀子が令和四年八月六日永眠致しました。通夜式、告別式に際しましては、利用者様ご家族、関係機関の皆様、ご多忙中にもかかわらず、ご厚情頂きまして法人職員一同、心よりお礼申し上げます。

数年前より病気は患っておりましたが突然のことで利用者様、法人職員一同、驚き、一時は茫然自失致しました。療養中は、「私はやり残したことはない」と言っておりましたが、会話の中には、氷川学園のことや利用者様のことを気にかけ心配しており、やり残したことが多々あったと思います。中でも平成二十八年十一月に行方がわからなくなつた「森田修代様」のことは何処かで元気に生活していることを信じて、気にかけて心配していました。本人が一番、驚き悔しい思いました。本人が、なかつたかと思

います。コロナ禍において自分の病状も考え利用者様に心配かけたくないとユニットに顔を出すのを控えており、利用者様に会えない辛さ、もどかしさがあったのではないかと。本来なら通夜式、告別式に利用者様に参列して頂きたいと考えまし

たが叶わず、ご家族のご意向で氷川学園に車で立ち寄って頂いたこと。利用者様の捉え方や理解能力は様々でありますが職員に「嘘」「悲しい」「淋しい」「信じられない」と涙を流される利用者様の姿をみると利用者様が頼りにされていたこと、西坂の利用者様への思いや関わり、関係性を当たり前ではあります。初代理事長、初代施設長の子どもに障がいがあり、地域に親亡き後に安全に安心して暮らせる場所がないことから、現理事長をはじめ多くの皆様にご賛同いただき開設し、学園訓として「私ども皆、兄弟であり、家族であることを信条として、力を合わせて学び園を護りましょう。」と謳われています。

西坂も職員には「施設だからできないのではなく、できる方法を考える」「自分たちの生活と同じ（近い）生活を提供すること」を口酸っぱく言っておりました。例えば、「夕方5時には夕食は食べないでしょ」「夜9時には寝ないでしょ」「毎日、昼にはお風呂には入らないでしょ」「そんな施設にあなたの家族をお願いできますか？」と問いかけていました。コロナ禍で面会や外泊の制限がはじまり、利用者様が帰省できないこと、面会でできないことを悔やんでおり、氷川学園は大きな家族という強い思いがありました。西坂自身も障がいがある家族であり、そんな中、職員

は家族にはなれない、家族に近づける努力をし続ける思いから、法人理念の中にも「共に在りたいと願い・・・彼のためにではなく、彼と共に在ることを喜びとする」を信条としており、職員へは、「なにかをしてあげるのではなく一緒にいることを幸せに感じるような支援を」と言っておりました。コロナ禍前や病気を患う前は施設長でありながら毎日、ユニットに足を運び利用者様と一緒に活動に参加し話をして楽しみ、旅行好きで毎年恒例の旅行にも利用者様二〜三人を自分自身で引率して楽しんでいました。家族という揺るぎない思いを感じられました。

### 桜の樹の下で

私の入職当時は、主任支援員として共に直接支援をさせて頂きました。当時は、当直勤務で夜な夜な利用者様のことはもちろん、家族のことを話され家族への思いを話していました。特に初代施設長西坂哲の氷川学園への想い等を聞かされたことを思い出します。当時は、利用者様も元気だった為、様々な仕事（活動）をこなしており、「どの活動に配置しても大丈夫なように障がいに関わる分野だけでなく、幅広く勉強をするように」と言っていました。他のどの職員より一緒に研修会等に誘って頂き、参加させて頂いたのではないかと思います。県内はもちろんですが県外、全国と誘って頂き感謝しています。施設長になつてからは「自分は

施設長になる器ではない、職員の皆様がいて支えられているから、今の自分がある」と謙遜していましたが、利用者やご家族、職員の相談、支援の中で行き詰った時などはアドバイスやヒントを瞬時に答え、法人職員だけでなく、地域の皆様や関係機関の皆様にも信頼され、頼りになる存在であったと思えます。

氷川学園として大黒柱を失いましたが初代理事長、初代施設長、西坂千賀子の福祉に対する思いや家族に対する想いを必ず引き継いでいかなければと思っております。管理者として、まだまだ、西坂に教わることは、数えきれないほどありました。自分自身、未熟ではありますが関係機関の皆様、地域の皆様、法人職員に支えて頂きながら氷川学園を護っていきたいと思えます。今後とも社会福祉法人清流会 氷川学園をよろしくお願いたします。





# 追悼・・・

令和四年 八月六日

社会福祉法人清流会 水川学園

施設長 西坂千賀子が永眠しました。突然の訃報に職員一同、驚き、戸惑い、嘘であつてほしい・・・と。コロナ禍での葬儀であり、利用者様は施設長の姿を見られることなくお別れをされました。私達職員より、永く施設長と共に色々な思い出を築かれてきた利用者様。突然の訃報に職員同様、なにを言われているか理解できないような表情で、じわじわとくる淋しさを抑えて・・・その気持ち、表情から、言動から伝わってくる：「辛いよね」「淋しいよね」「あんなに元気だったのに」「これからどうなるかな」と話しながら、一緒に涙しました。別れはいつかやってくるもの、でもあまりにも早すぎて、気持ちがいまいけないのが本音です。利用者様と一緒に過ごす中で、施設長の話をすることは多く、ユニットに顔を出されると、皆さんそれぞれに帰省や家族の話、楽しかったことや喧嘩した等の話を一斉に話始められていました。それができなくなることに、理解は難しくても、それぞれに感じておられる事を、職員一同で汲み取り、支援していきたいよう、努めていきたいと思ひます。



## 社会福祉法人清流会

理事長 田河 昭

あゆみ発行にあたりご挨拶申し上げます。

令和四年 八月六日

当法人統括施設長、西坂千賀子氏の突然の逝去を迎える事となり残念を感じていると同時に、ここに改めて生前のご厚誼に深謝申し上げます。

西坂千賀子氏は施設長就任以来、持ち前の福祉に対する考えと、水川学園に対する思いの上に立ち上げ、福祉関連五事業を展開する法人に導いた功績は誠に大きなものであります。

その間、天皇陛下の御下賜金の拝受、そして一大事業となりました園舎の新規建替えは、水川学園開設以来の事であり、これを円滑に成就させた功績も大であります。

一方、利用者様他に対する向き合い方は、全学一家の思いを基礎に利用者様一人一人に対し、それぞれが家族であるとの思いを学園に集う者全員が意識して当たる理念を持ち、各事業の展開に生かすことが出来ました。

今後は、社会福祉法人清流会五事業に関わる者全員が前施設長の福祉事業に対する理念を規範として、事業遂行に当たらなければと痛感している所であります。



## 熊本県南部発達障がい者

支援センター わるつ

センター長 武藤 亮子

施設長でありました母、西坂千賀子の急逝に際し、通夜葬儀には多くの方にご厚情頂きましたことを心よりお礼申し上げます。皆様から頂く多くの励ましの言葉や母との思い出話など、大変嬉しく思うと共に、改めて、こんなにも多くの方に支えられていたことを痛感し、言い尽くせないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。突然のことで、ご利用者様、ご家族、法人職員、そして母と出逢つてくださった多くの皆様には大変なご心配をお掛けしていることと思ひます。私自身、母をこんなに早く、こんなに

突然に送ることになるとは想像もしていませんでした。この数年は、コロナ禍で園も帰省や面会を制限することになり、家族に会つて話をする”そんな当たり前のことが当たり前にできなくなつた日常に、会いたい人に会えない、行きたい場所に行けない歯痒さ、悔しさ、申し訳なさを母はいつも感じていたと思ひます。亡くなる数日前に「園のみんなに会えていない」と淋しそうに話す姿や、最期のとき、薬の作用で眠りそうになる意識の中で母が話した「眠ると夢を見る」、学園のこと」という言葉が忘れられません。法人理念でもある共にあることを最期まで願っていたのだと思ひます。

施設長を、母を亡くした今、不安が



ないと言えば嘘になります。せつかな母とマイペースな私は、仕事でもプライベートでもよくぶつかりました。母が親孝行をさせてくれる間もなく、あつという間に旅立ったのは、「そのうちするよ」「また今度ね」が口癖の私に、「後悔しないように今を大切にすること、自分で考えて行動しなさい」と言われているように感じています。初代理事長や施設長が、障がいのある子の親として、水川学園に託した「子どもたちが安心して暮らせる場所」となることへの想いを繋いでいくこと、そして、母へできなかつた孝行を、これまでお世話になつた方々への感謝にかえて返していくことが、母が私に最後に示してくれた道標だと思ひています。

これから私たちが踏み出す新たな一歩は、先代から続いてきた道の上にあります。そこには多くの方の支えと励ましがあつて、小さくても確実に一歩ずつ進んでくることが出来ました。これまで多くのご支援にお礼を申し上げると共に、これからは歩みを続けていく私たちを、水川学園を、清流会を、皆様には変わらず支え、見守り、想つて頂けるよう、一歩一歩大切に、力を合わせて進んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。そして、今後とも宜しくお願ひ致します。



# 氷川からの秋だより

梅の収穫



自家製梅ジュースで乾杯!!



レモンシロップ作り!



竹輪の串焼き



栽培



ホットケーキ



調理

ホットドッグの完成日



中庭に出てランチタイム



真の赤な梅とれ[=5.]



誕生会 4月



7月

夏野菜の栽培



6月

手作りケーキにニコリ^^

5月

おたんじょう  
おめでとう



プレゼントは何か?



還暦祝いと誕生会 皆でお祝い!

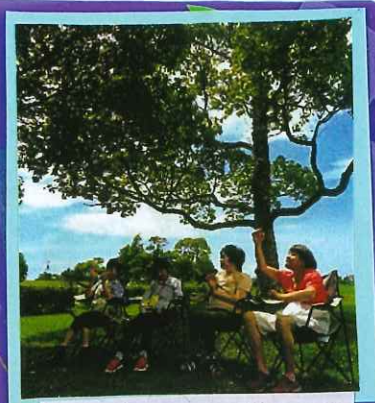






日奈スグーゲンビリアロードへ

外出



球磨川河川敷にて



園内と散策



大きなくまモンと一緒に

端午の節句



手作りのこいのぼり



思い思いにトッピング



チョコバナナ作り



イベント



七夕

フラワーアレンジメント



温泉スタンプラリー



氷川学園に温泉登場!!

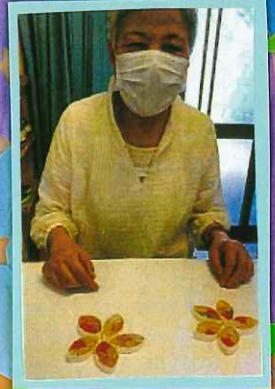
創作活動



貼り絵



スポンジアート





ありがとう



嶽本拓夫様 高三瀦宣英様 林田靖恵様  
 藤井明子様 松本良子様 荒木高弘様  
 有野由美子様 徳永隆二様 福岡信幸様  
 泉明子様 平崎文男様 造道康一様 迫田博信様  
 中村カツ子様 池田二三子様 松村君夫様  
 西本勝彦様 星田夏美様 釜敏男様 谷口初大様  
 社会福祉法人菡会 あかね園 高橋泰子様  
 社会福祉法人御陽会 ヴィラささゆ様  
 ケアパーク(株)様 テンタルサポート(株)様  
 (株)クマモトメディカル様 宮村商店様  
 那須酒店様 厚生労働省様 (有)宮原調剤薬局様



皆様からのお心遣い感謝申し上げます。

★ 行事 ★

※各行事共、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、

園内行事での実施になります

9月 敬老会

10月 ひかわの森マルシェ

12月 クリスマス忘年会

◇毎月開催◇

誕生会

利用者自治会 たけのこ会



お知らせ

この度、故 西坂千賀子の後任として下記の通り  
 管理者が選任され、それぞれ就任致しましたので  
 お知らせ申し上げます。

氷川学園

管理者 村山 智

氷川学園グループホーム事業所  
 氷川学園相談支援事業所 風舎  
 氷川学園児童デイサービス事業所 風楽

管理者 山下 孝治

熊本県南部発達障がい者支援センターわるつ

センター長 武藤 亮子

御礼

施設長 西坂千賀子の葬儀に  
 際しましては、多くの方々のご  
 参列ご丁寧なお心遣いを賜り誠  
 にありがとうございました。  
 法人職員一同、施設長の想い  
 を引継ぎ、法人の発展に努め、利  
 用者の皆さんの笑顔を守ってい  
 きたいと思っております。  
 これからも、引き続きご指導  
 頂きますよう、何卒よろしくお  
 願い申し上げます。

(法人スタッフ一同)

編集後記

日頃より氷川学園広報誌「あゆみ」を  
 ご覧頂きありがとうございます。  
 本来、あゆみ夏号(八月)として皆様  
 の御手元にお届けする予定でしたが、  
 施設長 西坂千賀子の逝去に伴い、一  
 部内容を変更し九月発刊秋号になりま  
 した事をご了承下さい。

これからも、西坂千賀子の思いを胸  
 に、氷川学園広報誌「あゆみ」から、皆  
 様へ発信していきたいと思っております。  
 今後とも、よろしくお願ひ申し上げ  
 ます。

次回は、あゆみ冬号(一月)の発刊に  
 なります。

(広報部一同)